

3-5 東洋日本美術史

研究・教育活動の概要と特色

東洋日本美術史専攻分野は、大正12年(1923)5月に設置された文化史学第二講座をその前身とし、法文学部創立以来の長い伝統を有している。その間、多くの人材が輩出し、特に全国の美術館・博物館で学芸員として活躍する卒業生の多いことが特筆される。

現在の二名の教員はいずれも仏教美術を専門とする。この点は諸大学に比して本専攻分野を特色づけるものだ。1996年度以来、本専攻分野は科学研究費基盤研究(A)を受給し、東北地方を中心とする仏教美術調査を継続している。その間、基礎データ及び画像資料の蓄積に努め、中尊寺金色堂諸像の調査などで大きな成果をあげてきた。

研究面ではこのように仏教美術研究に大きな特色があるが、一方、教育においては、分野・時代を狭めるのではなく、柔軟な視野に立ち、幅広い知識を求めることができる人材の育成に務めている。また、美術史の基礎的な方法である作品観察の技術を自分のものとしてできるよう、多くの作品を入念に見ることを指導している。科研費の調査には大学院生も主力として参加し、実作品に触れる有効な機会を得ている。近年は、中国や韓国など東アジアの各地において、作品調査をおこなう機会も多い。

研究室は夜を徹して学ぶ学生のために開放されており、学部学生を大学院生が指導するという光景も日常的なものとなっている。

I 組織

1 教員数(2008年4月現在)

教授：2

准教授：0

講師：0

助教：0

教授：泉武夫、長岡龍作

2 在学生数(2008年4月現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	
9	1	4	9	0	

3 修了生・卒業生数（2004～2007年度）

年度	学部卒業者	大学院博士課程前期修了者	大学院博士課程後期修了者 (満期退学者)	博士学位授与者
04	6	3	0	1
05	11	2	0	0
06	8	3	0	0
07	5	2	0	0
計	30	10	0	1

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2007年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	1	0	1
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
計	1	0	1

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

池江伊、2004年度、『統一新羅下代初期慶尚南道地域の仏教彫刻研究』

審査委員：教授・長岡龍作(主査)、教授・田中英道、教授・尾崎彰宏、教授・川合安

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	1	0	0	1	2
05	0	2	0	0	2
06	0	0	0	0	0
07	1	2	0	0	0
計	2	6	0	1	9

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	1	8	1	10
05	1	0	3	0	4
06	0	1	3	0	4
07	1	1	7	0	9
計	2	3	21	1	27

2-3 上記の大学院生による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

畑靖紀、室町時代の南宋院体画に対する認識をめぐって―一足利将軍家の夏珪と梁楷の画卷を中心に、美術史、156、427-443頁、2004年

清水健、瀧の彼方にみえるもの―根津美術館本那智瀧図の意味をめぐって―、美術史学、24、1-26頁、2004年

池江伊、韓国 防禦山薬師三尊像について―制作背景を中心に―、美術史学、24、27-56頁、2004年

小井川理、平安時代一品経供養と普賢菩薩画像制作について、美術史学、24、57-82頁、2004年

齋藤千穂、俵屋宗達の慶長年間における金銀泥下絵の様式展開に関する一考察、美術史学、24、83-111頁、2004年

池江伊、韓国梁山弥陀庵阿弥陀如来立像について―甘山寺像との比較考察を通じて―、仏教芸術、278、28-57頁、2005年

畠山浩一、引用と転用―近世初期風俗画にみる図様継承の諸相―、鹿島美術財団年報、22別冊、234-244頁、2004年度

畠山浩一、楊枝をくわえたかぶき者―近世初期風俗画における姿型継承の一例―、美術史学、26、35-59頁、2006年

坂本明子、豊国祭礼図の成立と展開、美術史学、26、61-85頁、2006年

海野啓之、醍醐寺三宝院弥勒菩薩坐像についての―解釈―弥勒の図像を手がかりに、美術史、163、108-126頁、2007年

小野朋子、仁和寺阿弥陀三尊像の宗教的機能―天皇追善のための造像―、美術史学、28、23-48頁、2008年

塚本麻衣子、向源寺十一面観音像の頭上面図像について―平安初期観音信仰に関

する試論一、美術史学、28、49-66 頁、2008 年

(2) 口頭発表

五月女晴恵、『伴大納言絵巻』の制作目的について—御霊・伴善男鎮魂説をめぐって—、鹿島美術財団研究発表会、2004 年 5 月 14 日

井上大樹、六波羅蜜寺（西光寺）創建期諸像について、美術史学会全国大会、2004 年 5 月 22 日

塚本麿充、『海外書』小論—北宋における美術外交と文物収集の歴史的役割についての一考察、国際東方学会議、2005 年 5 月 20 日

海野啓之、醍醐寺三宝院弥勒菩薩坐像に関する一考察—弥勒の図像を足掛かりに、美術史学会全国大会、2006 年 5 月 28 日

濱田恒志、東大寺法華堂天平期諸像に関する研究、美術史学会全国大会、2007 年 5 月 27 日

原浩史、顕教美術と密教美術—東寺講堂諸像を例として、JAWS、2007 年 11 月

3 大学院生・学部生の受賞状況

五月女晴恵 第 11 回鹿島美術財団賞 2004 年

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5- 1 大学院生・学部学生等の留学数

04 年度 大学院 計 1 名 台湾大学（中華民国）

5- 2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	1	0	0
07	0	0	0
計	1	0	1

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	1	0
計	0	1	1

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

清水緑 財団法人三溪園学芸員 2004年度
清水健 奈良国立博物館研究員 2004年度
瀬谷貴之 神奈川県立金沢文庫学芸員 2004年度
畑靖紀 九州国立博物館研究員 2004年度
齋藤千穂 福井市立郷土歴史博物館学芸員 2005年度
小井川理 彦根市立彦根城博物館学芸員 2005年度
守屋靖裕 岐阜県立博物館学芸員 2005年度
五月女晴恵 東京大学助手 2005年度
塚本麿充 大和文華館学芸員 2005年度
井上大樹 東北大学助手 2005年度
池江伊 韓国文物研究院研究員 2005年度
井上大樹 大分県立歴史博物館学芸員 2008年度
濱田恒志 ふくやま美術館学芸員 2008年度
五月女晴恵 北九州市立大学准教授 2008年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

なし

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『美術史学』 年刊 (美学・西洋美術史専攻分野と共同発刊)

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

美術史学会本部事務局 2003年度～2005年度

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

修学会 (美術史研究会)

2004年度 4月28日、11月18日

2005年度 6月10日、6月24日

2006年度 4月19日、5月11日、6月13日

2007年度 5月16日、7月17日、11月1日、11月20日、11月28日、
1月22日、2月8日

丹青会 (東洋絵画研究会)

2004年度 4月28日、7月7日、8月14日、11月10日、11月24日、
3月11日

2005年度 8月1日、11月11日

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本専攻分野の過去5年間の活動には特記されるべき点はいくつかある。

第一に、2003年度から開始した基盤研究(A)(1)「奥州仏教文化圏に遺る宗教彫像の基礎的調査研究」(研究代表者有賀祥隆)が2005年度に終了し、引き続き、基盤研究(A)(1)「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究—古代から中世への変容を軸に」(研究代表者有賀祥隆)を開始したことである。この間、調査作例について詳細なデータと図版を掲載した報告書を刊行した。本専攻分野が継続しているこの基礎調査は、教員と大学院生が連携してマネジメントし、学外の分担者の協力を得ておこなっている。多年の運営経験は組織的なルーチンを作り上げた。この研究が挙げている成果については、『月刊文化財』2006年5月号が特集した「最新の彫刻史研究」に寄稿を求められた長岡が「東国の仏像—東北大学の科学研究費による研究成果」を書いて紹介しており、すでに学界においても注目されるものとなっている。

第二には、2003年5月から2006年5月まで、美学西洋美術史専攻分野と共同して、美術史学会の本部事務局を務めたことである。長く在京の機関が務めてきた本部事務局をそれ以外の機関として初めて引き受けた。この間、学会事務センターの破綻という難局が予期せず起きたが、庶務委員を務めた教員と幹事を務めた助手や院生の努力により無事任期を終え、学会に大きく寄与することができた。

第三には、博士課程に在籍している大学院生が、継続的に学芸員として採用されていることである。多くの採用があった2004～05年度に続き、2008年度にも二名が学芸員として採用された。また、2008年度は一名が大学教員に採用された。これは、院生それぞれの努力の賜物であると同時に、本専攻分野の教育の成果が社会的にも認知されたものとして理解したいできごとである。その後も、全国大会で注目される発表をおこなう者が続いており、人材は継続的に育っているといえる。

以上の通り、過去5年間の本専攻分野の活動には評価されるべき点はあると考えている。一方、各地の美術館・博物館に眼を向ければ、指定管理者制度が導入され博物館行政は今大きな転機を迎えている。これらの機関に多くの人材を提供してきた本専攻分野には、これからの博物館を担う新たな人材を育ててゆく責務があると考えられる。そのような中、2006年4月には、京都国立博物館で長く博物館業務に携わった泉武夫を本専攻分野の教授として迎えた。氏の経験と美術史研究に真摯に取り組む姿勢を新たに得ることで、本専攻分野は研究と教育をさらに充実させてゆくことができる。この点を今後の方向として示して総括としたい。

Ⅲ 教員の研究活動（2004～2008年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

長岡龍作「仏像の意味と上代の世界観—内と外の意識を中心に」 『講座日本美術史 第三巻 図像の意味』東京大学出版会、13-45頁、2005年6月

長岡龍作『仏像荘厳にあらわれる墓モチーフに関する調査研究』（2002年度～2004年度科学研究費補助金基盤研究（C）（2））研究成果報告書、2005年7月

長岡龍作「神像成立に関わる—考察—古代日本の八幡神—」 『ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集 第三号 カミとほとけ—宗教文化とその歴史的基盤—』、7-23頁、2005年12月

長岡龍作「悔過と仏像」 『鹿園雑集』（奈良国立博物館研究紀要）第8号、1-29頁、2006年3月

長岡龍作「山の像—古代日本の山岳観と神仏—」 『東北文化研究室紀要』第47集

- 別冊「東北文化講演会国際シンポジウム 山と神—東アジアの視点から—」、
53-67 頁、2006 年 3 月
- 長岡龍作「楽法寺蔵 観音菩薩立像、妙法寺蔵 伝阿弥陀如来坐像・伝観音菩薩
立像・伝虚空蔵菩薩立像」、『国華』1326 号 38-43 頁 2006 年 4 月
- 長岡龍作著・池江伊訳「悔過と仏像」（韓国文） 『美術史論壇』23 127-170 頁
2006 年 11 月
- 長岡龍作「彼岸・因果・表象—仏教美術への開かれたアプローチとして」 『日本仏教
総合研究』6 31-52 頁 2008 年 5 月
- 長岡龍作「救济と表象—「中尊寺供養願文」寺院に投影された意味について」 『季刊
東北学』16 号 66-83 頁 2008 年 7 月
- 泉武夫「伝船中湧現観音像の図像と修法」 『美術史』157 号、1-12 頁、 2004 年 10
月
- 泉武夫「五大力菩薩像をめぐる基盤的考察—試論—」 『国華』1310 号、7-25 頁、
2004 年 12 月
- 泉武夫「石清水の八角宝珠箱—請雨経法との関連から—」 『研究発表と座談会 神
の姿をあらわす』、16-22 頁、 仏教美術研究上野記念財団 2005 年 3 月
- 泉武夫「「清衡経」見返絵に関する若干の覚書」 科学研究費補助金研究成果報
告書『中尊寺経を中心とした平安時代の装飾経に関する総合的研究』（研究
代表者 興膳宏）、35-46 頁、 2005 年 3 月
- 泉武夫「如意輪観音画像考—新出の平安仏画—」 『学叢』27 号、45-61 頁、2005
年 5 月
- 泉武夫「青不動—画像と行法をめぐる形と意味—」 『講座 日本美術史 3』、47-80
頁、東京大学出版会 2005 年 6 月
- 泉武夫「笠置寺磨崖線刻菩薩像の制作時期をめぐる」 『学叢』128 号、25-42 頁、
2006 年 5 月
- 泉武夫「景教聖像の可能性—栖雲寺蔵伝虚空蔵菩薩像について—」 『国華』1330
号、7-17 頁、2006 年 8 月
- 泉武夫「光輝表現法の一異種—仏画における雲母使用—」 『美術史学』27 号、25-49
頁、2007 年 3 月
- 泉武夫「仏教美術研究の近年の動向と隣接諸学との接点」 『日本宗教文化史』21
号、48-56 頁、2007 年 5 月
- 泉武夫「六道絵の作風と絵師の分類」、『国宝 六道絵』、195-214 頁、中央公論
美術出版、2007 年 11 月

井上大樹「六波羅蜜寺（西光寺）創建期諸像について」、美術史、第 160 冊、277-297 頁、2006 年 3 月

1- 2 著書・編著

長岡龍作『人文科学ハンドブックスキルと作法一』（共著、「仏教美術を読む」を執筆）、東北大学出版会、171-175 頁、2005 年 3 月

長岡龍作『講座日本美術史 第四巻 造形の間』（編著）、東京大学出版会、2005 年 9 月

長岡龍作『東北 その歴史と文化を探る』（共著、「みちのくの仏像—造形と風土—」を執筆）、東北大学出版会、2006 年 3 月

泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』、小学館、2004 年 10 月

1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

長岡龍作「チベット—河口慧海と多田等観請来品の世界」 『東北大学の至宝—資料が語る 1 世紀』展図録、61-70 頁、2007 年 9 月

長岡龍作「中尊寺金色堂壇上諸像」 『仏教新発見 15 中尊寺』 16-17 頁 朝日新聞社 2007 年 9 月

長岡龍作「善光寺式阿弥陀像」の人気の謎 『仏教新発見 16 善光寺』 12-13 頁 朝日新聞社 2007 年 10 月

泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 金色 1」 『華道』66-4 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 4 月

泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 金色 2」 『華道』66-5 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 5 月

泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 截金」 『華道』66-6 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 6 月

泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 銀」 『華道』66-7 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 7 月

泉武夫 概説・作品解説 独立行政法人国立博物館巡回展目録『京都国立博物館所蔵 日本美術の至宝展』 大分市美術館・京都国立博物館、5-6 頁、18-28 頁、2004 年 7 月

泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 写実と理想」 『華道』66-8 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 8 月

泉武夫 作品解説（板絵神像ほか九点） 特別展覧会目録『神々の美の世界』 産

- 経新聞社、218-220 頁、247 頁、2004 年 8 月
- 泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 繻綢彩色」『華道』66-9 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 9 月
- 泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 一切経の装飾」『華道』66-10 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 10 月
- 泉武夫 作品解説（玄奘三蔵曼荼羅図ほか七点） 特別展覧会目録『古写経一聖なる文字の世界一』 京都国立博物館、282 頁・292 頁・315-316 頁、2004 年 10 月
- 泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 吟味」『華道』66-11 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 11 月
- 泉武夫「仏教絵画の美の仕掛け 基本に忠実に」『華道』66-12 号 日本華道社、20-21 頁、2004 年 12 月
- 泉武夫 科学研究費補助金研究成果報告書『中尊寺経を中心とした平安時代の装飾経に関する総合的研究』（研究代表者 興膳宏） 研究概要および編集、17-25 頁、2005 年 3 月
- 泉武夫「図像伝播における「唐本」と版本」 科学研究費補助金 特定領域研究 研究成果報告書『東アジア出版文化の研究』本冊 2、29-36 頁、2005 年 3 月
- 泉武夫 『図像蒐成 X』（解題および編集） 仏教美術研究上野記念財団報告書、1-2 頁、2005 年 3 月
- 泉武夫「美を促がすもの—「最澄と天台の国宝」展によせて—」『UP』395 号 東京大学出版会、45-50 頁、2005 年 9 月
- 泉武夫「天台絵画の森に踏み迷う—思想と美術の横断的小考察」 特別展覧会目録『最澄と天台の国宝』特論、286-290 頁、2005 年 10 月
- 泉武夫 作品解説（普賢菩薩像ほか十九点） 特別展覧会目録『最澄と天台の国宝』、321-322 頁・328-329 頁・337-342 頁・347 頁・349 頁・356-357 頁、2005 年 10 月
- 泉武夫「「浄厳院阿弥陀聖衆来迎図」—修理後の知見—」『平成十一年度 京都国立博物館文化財保存修理所 修理報告書 I』、6-9 頁、2006 年 1 月
- 泉武夫「《愛染明王像》とその歴史的 position」『木村定三コレクション研究報告書 1』13-17 頁、2007 年 3 月
- 泉武夫「特論 中尊寺経（紺紙金銀字一切経）をめぐって—金剛峯寺蔵中尊寺経の調査のことども—」、特別展覧会目録『平泉—みちのくの浄土—』、NHK、2008 年 11 月

翻訳

ジャッキー・エルガー、アン・ニシムラ・モース、リチャード・ニューマン共著
「法華堂根本曼陀羅に関する科学的研究」（泉武夫訳）、『美術史学』27号、
105-119頁、2007年3月

1-4 口頭発表

長岡龍作「「僧形」の神—古代日本の神のかたち」、第3回ザ・グレートブッダ
シンポジウム「カミとほとけ—宗教文化とその歴史的基盤」、2004年12月
18日

長岡龍作「上代日本の「異国」像」、国際東方学会議・招待講演、2005年5月
20日

長岡龍作「山の像—古代日本の山岳観と神仏」、東北文化講演会国際シンポジウ
ム「山と神 東アジアの視点から」、2005年11月19日

長岡龍作「靈験像とは何か」、金沢文庫専門講座 2006年11月12日

長岡龍作「悔過と仏像」・「仏像と景観」、亜州仏教芸術研修宮招待講演 於法
鼓山大学（台湾） 2007年2月6日

長岡龍作「彼岸と表象—仏教美術の機能についての基礎的考察」、美術史学会全
国大会招待発表、於九州大学、2007年5月25日

長岡龍作「仏教における「靈験」—仏が感応する場と表象」 公開・国際シンポ
ジウム「死生と造形文化Ⅱ 礼拝像と奇跡 東西比較の試み」 2008年5月
31日 於東京大学

長岡龍作「美術から見た平泉の信仰—「表象」の仏教的意味を中心に」 シンポ
ジウム「都市平泉と列島の中世」 2008年7月26日 於平泉ホテル武蔵坊

泉武夫「石清水の八角宝珠箱」、仏教美術研究上野記念財団主催：研究発表と座
談会「神の姿をあらわす」、2004年9月6日

泉武夫「《愛染明王像》とその歴史的 position 付け」、愛知県美術館招待講演、愛知
芸術文化センター、2006年11月4日

泉武夫「仏教美術史研究の近年の動向と隣接諸学との接点」、日本宗教文化史学
会第十回記念大会シンポジウム招待講演、京大会館、2006年11月25日

泉武夫「画像資料による仏教美術作品の分析」、公開シンポジウム「歴史資源と
しての史料分析の現在」第1回、東北大学文学部、2007年3月13日

井上大樹「六波羅蜜寺（西光寺）創建期諸像について」、美術史学会全国大会、
2004年5月22日

2 教員の受賞歴（2004～2008年度）

井上大樹 第5回『美術史』論文賞（2007年）

IV 教員による競争的資金獲得（2004～2008年度）

（1）科学研究費補助金

長岡龍作（研究代表者）2002～2004年度 基盤研究（C）「仏像荘厳にあらわれる墓モチーフに関する調査研究」、3,400,000円（3年総額）

長岡龍作（研究分担者）2003～2005年度 基盤研究（A）「奥州仏教文化圏に遺る宗教彫像の基礎的調査研究」、34,400,000円（3年総額）

長岡龍作（研究代表者）2006年～ 萌芽研究 「仏教美術のトポロジー—仏像のいる土地とその意味に関する基礎的考察」、2006年1,100,000円・2007年1,400,000円

長岡龍作（研究代表者）2006年～ 基盤研究（B）「「奉為の造像」研究」、2006年3,830,000円・2007年3,080,000円・2008年2,300,000円

長岡龍作（研究分担者）2006年～ 基盤研究（A）「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究—古代から中世への変容を軸に」、2006年14,600,000円・2007年11,100,000円・2008年11,900,000円

長岡龍作（研究分担者）2007年度～、基盤研究（B）「兜率天往生の思想とのかたち」 2007年4,986,000円・2008年1,920,000円

泉武夫（研究分担者）2001～2004年度 基盤研究（A）「中尊寺経を中心とした平安時代の装飾経に関する総合的研究」 2001年1,9630,000円・2002年8,450,000円・2003年8,060,000円・2004年6,110,000円

泉武夫（研究代表者）2004～2006年度 萌芽研究「日本仏画における皆金色技法の成立と表現史に関する基礎的研究」、2004年1000,000円・2005年600,000円・2006年400,000円

泉武夫（研究分担者）2006年～ 基盤研究（A）「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究—古代から中世への変容を軸に」、2006年14,600,000円・2007年11,100,000円

泉武夫（研究代表者）2007年度～、基盤研究（B）「兜率天往生の思想とのかたち」 2007年4,986,000円・2008年1,920,000円

井上大樹（研究分担者）2006年～2007年度 基盤研究（B）「「奉為の造像」研

究」、2006年3,830,000円・2007年3,080,000円

井上大樹（研究分担者）2006年～2007年度 基盤研究（A）「東日本に分布する宗教彫像の基礎的調査研究—古代から中世への変容を軸に」、2006年14,600,000円・2007年11,100,000円

井上大樹（研究分担者）2007年度、基盤研究（B）「兜率天往生の思想とそのかたち」 2007年 4,986,000円

（2）その他

長岡龍作（研究分担者）2005年度 東北大学教育研究改革・改善プロジェクト経費「東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化」、6,480,000円

V 教員による社会貢献（2004～2008年度）

長岡龍作

仙台市文化財保護審議会委員（2002年度～現在）

東京文化財研究所外部評価委員（2001年度～2006年度）

「仏像について—阿弥陀如来のかたちと信仰—」 仙台市北山シルバースクール 2004年6月12日

「みちのく仏像案内—宮城・山形篇」 有備館講座「歴史」 2005年5月14日

「仏像と古代の社会—なぜ人々は仏像をつくったのか」 東北大学オープンキャンパス 2005年7月29日

「悔過と仏像」 奈良国立博物館夏期講座「古密教」 2005年8月23日

「仏像—造形と風土」 みやぎ県民大学「東北 その歴史と文化を探る」 2005年9月24日

「仏教美術と紅葉—美術の中の自然景をめぐる—考察」 東北大学市民オープンキャンパス・紅葉の賀 2005年11月3日

「みちのく仏像案内・古代篇—天王寺考」 有備館講座「東北の豊かさ」 2005年12月17日

「念仏・懺悔・往生—平泉美術と仏教思想」 平泉文化史講座 2007年11月10日

「奈良時代興福寺の仏像」 興福寺仙台講座 2007年12月21日

「みちのく・肖像の風景—聖人・祖師・先祖」 有備館講座「東北人の自画像」 2008年1月19日

泉武夫

福井県小浜市文化財審議委員 2004年～2006年

国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会作業会委員 (2006年～2008年3月)

宮城県文化財審議委員 (2008年～)

宮城県美術館評議員 (2008年～)

仙台市博物館評議員 (2008年～)

國華賞選衡委員 (2005年～現在)

「秋鹿にちなむ尺八の名曲と秘曲—レクチャー&ミニコンサート—」、東北
大学市民オープンキャンパス・紅葉の賀 2006年11月3日

「「応徳涅槃図」の醍醐味」、奈良国立博物館第36回夏期講座『院政期の絵
画』、2007年9月21日

「美麗なる仏画—虚空蔵菩薩像」、東京国立博物館月例講演、2007年9月29
日

「尺八野外コンサート—」、東北大学植物園・みどりの日、2008年5月4日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2004～2008年度)

長岡龍作

美術史学会東支部常任委員 2004年5月～2008年5月

泉武夫

美術史学会西支部委嘱委員 2003年

美術史学会西支部常任委員 2004年～2006年

美術史学会東支部委嘱委員 2008年～

VII 教員の教育活動 (2008年度)

(1) 学内授業担当

1 大学院授業担当

教授 長岡龍作

東洋・日本美術史特論Ⅰ・Ⅱ

東洋・日本美術史研究演習 (前期)

課題研究 (東洋日本美術史)

教授 泉武夫

東洋・日本美術史特論Ⅰ・Ⅱ

東洋・日本美術史研究演習Ⅱ（後期）
課題研究（東洋日本美術史）

2 学部授業担当

教授 長岡龍作

東洋・日本美術史基礎実習
東洋・日本美術史各論
東洋・日本美術史演習
東洋・日本美術史基礎講読
東洋・日本美術史概論（第4 Semester）

教授 泉武夫

東洋・日本美術史基礎実習
東洋・日本美術史各論
東洋・日本美術史講読
東洋・日本美術史概論（第3 Semester）

3 共通科目・全学科目授業担当

なし

(2) 他大学への出講（2004～2008年度）

長岡龍作

金沢美術工芸大学非常勤講師 2001～2008年度
山形大学非常勤講師 2004年度
沖縄県立芸術大学美術工芸学部非常勤講師 2006・2008年度
放送大学山形学習センター面接授業 2006年12月16日～17日

泉武夫

京都大学大学院人間・環境学研究科併任教授（博物館文化財学）2001～2005
年度